

土木建築学科 1年生・3年次編入生研修旅行報告

【土木系】

2018年5月13日に平成30年度土木建築学科(旧社会環境工学科)入学生72名と3年次編入生10名を対象として土木工事現場等を見学する研修旅行を阿蘇地域で行いました。

当日は、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所が所管する二重峠トンネル工事大津側掘削現場と赤水側の地盤沈下対策工事現場に始まり、阿蘇火山博物館、立野ダム、ましきラボを見学しました。

二重峠トンネルは平成28年熊本地震の影響を受けた国道57号線の迂回路として掘削されており、災害復旧事業であることから避難坑を利用して2方向から本坑を掘り進め工期短縮を目指しています。今回はトンネル掘削方法、内部の掘削状況、使用機材等について説明を受け、また、阿蘇火山外輪山内の赤水側では軟弱地盤改良工事の説明を受けました。多くの学生が大規模な土木工事の現場に圧倒された様子でした。

阿蘇火山火口見学は生憎の天候で断念となりましたが、阿蘇火山博物館学芸員やジオガイドの方々の案内で博物館内を見学し、阿蘇火山とその周辺地域の成立ちと文化について学ぶことができました。

立野ダムは雨足が強く十分に見学を行うことが困難でしたが、立野ダムが建設される場の状況を実感する機会となりました。

見学の最後は、益城町に位置する熊本大学ましきラボでした。ましきラボの活動に携わる円山琢也先生の説明と案内から、ましきラボの活動内容と熊本地震で大きな被害を受けた益城町の状況について学びました。

今回の研修旅行を通じ、阿蘇地域の成立ちと熊本地震との関係、災害からの復旧・復興とまちづくりという土木工学が携わる分野のつながりを学ぶことができただけでなく、学生同士の交流を図ることができました。また、3年次編入生の中には3名の留学生がおり、日本の土木に関わる現場を具体的に知る機会となりました。

日曜日の実施にも関わらず、多くの方に現場を説明していただき本研修旅行を無事に終えることができました。

尚、天候不良により見学が十分に行えなかった阿蘇火山火口と立野ダムについては、5月31日に大学において補足説明を行いました。

【建築系】

平成 30 年度土木建築学科(旧建築学科)では、入学生 61 名を対象として 2018 年 5 月 14 日に建物と街なみを見学する研修旅行を行いました。

まず、玉名市にある玉名天望館を見学した後、山鹿市に移動して、八千代座、さくら湯、温泉プラザ山鹿、山鹿小学校を見学しながら、景観に配慮した山鹿の街なみを歩きました。

玉名天望館では、田中智之先生から熊本アートポリス事業の概要、設計者の高崎正治氏および建物のコンセプトを説明していただいた後、実際に展望台に上って奇抜なデザインが作り出す空間を体感しました。ここでは各自の印象に残った空間の写真を撮り、後からレポートを提出してもらいましたが、学生たちは建築が生み出す空間とそのパワーを強く感じたようでした。

山鹿市では、まず八千代座を見学しました。熊本大学建築出身の OB が建物の歴史や造りを解説してくださいました。古い建物を現在の規基準に合うように復元するための苦労や表に見せない耐震改修、設備設置の手法など、さまざまな角度から歴史的建造物の維持管理の工夫を学びました。

その後、景観に配慮した山鹿の街道を歩きながら、さくら湯、温泉プラザ山鹿を見学しました。この地域は、九州初の市街地再開発事業によって整備された地区で、さくら湯の再建と複合用途ビルの建設が行われた経緯を田中智之先生に解説していただき、再開発事業の種類や考え方を学びました。その後、山鹿小学校まで歩き、設計者の工藤和美氏および木材を利用した校舎等について、再び田中先生から話をうかがいました。平日だったため校内の見学はできませんでしたが、外から建物を見学しました。

普段、何気なく眺めている街なみや建築空間を作り出す苦労や工夫、そして建築や街が持つ力を感じることができた研修となりました。これから建築を学ぶ上で、良い機会を得ることができたと感じました。また、学生同士だけでなく、教員と学生との交流も深める機会になりました。

5 月にもかかわらず暑い一日でしたが、天候に恵まれ、無事に研修を終えることができました。